

# 環境レポート 2023

(株)矢野特殊自動車  
品質保証部 柴田

## 1. はじめに

矢野特殊自動車は環境負荷の低減を経営の社会的使命と位置づけ、地球環境の保全を目指し、全社員が環境負荷の低減に積極的に取り組んでいます。

事業活動に伴い発生する環境側面を十分に抽出し、環境目的・目標に展開し、環境保全対策、汚染予防を実行し、定期的な見直しを行い、環境パフォーマンスを維持し、その改善に結び付けられるように、環境マネジメントシステムの継続的改善をはかっています。

## 2. 二酸化炭素排出量削減

地球温暖化を抑制する為二酸化炭素排出量の低減に取り組んでまいります。

福岡県のエコ事業所に登録し、電気使用量の削減に向けた取り組みや営業車をハイブリット車等の低燃費車に代替えし、自動車燃料使用量の削減に向けた取り組みを推進してきました。

森林減少抑制に向けて製品のウッドレス化に積極的に取り組んでいます。

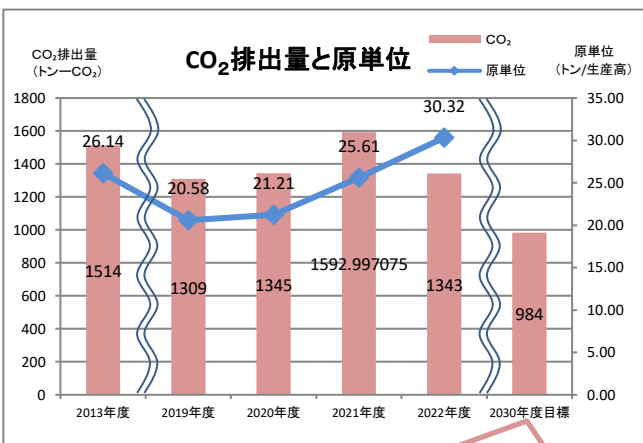
当社の二酸化炭素排出量の約60%は、購入電力がしめています。

電力使用量削減のため、工場棟や事務所の照明のLED化を推進してきました。

しかしながら、2019年度から2021年度までは増加傾向となっております。増加要因として、工場内空調設備導入や塗装乾燥ブースの稼働の増加があります。また、電力量からCO2算出で電力会社の換算係数変更による増加もあります。

2022年度は、CNプロジェクトを全社で5チーム編成し、ガソリン・灯油・軽油・LPGの削減を推進してきました。

具体例としては、塗装ブースの省エネ設備への代替えでLPG使用量を削減した事などですが、生産量が減った事も後押ししています。外部からの指導も加え削減を推進していきます。



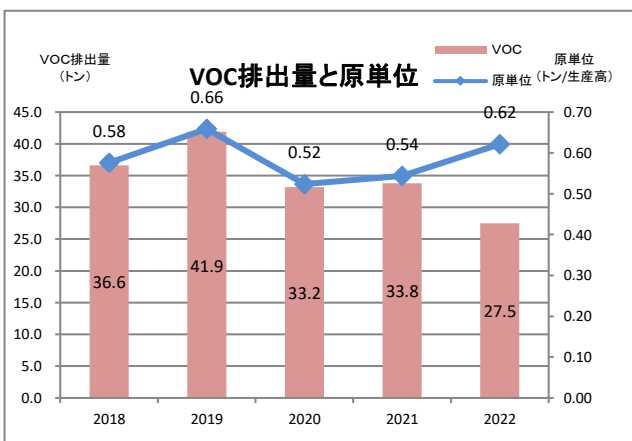
2013年度をベースとし35%削減した排出量

## 3. 揮発性有機化合物(VOC)削減

浮遊粒子状物質(SMP)や光化学オキシダントによる大気汚染や健康被害が数多く届出されています。

SMPや光化学オキシダントの原因の一つに揮発性有機化合物(VOC)がありますので、当社ではトルエン、キシレンの含有量の少ない塗料やシンナーに変更し削減の取り組みを進めています。

作業中の揮発性有機化合物(VOC)の揮発を極力少なくするため開缶時間を最短にするようにしています。大きな削減要因として、生産量減少による使用塗料の減少となっています。



## 4. 環境負荷物質(SOC)削減

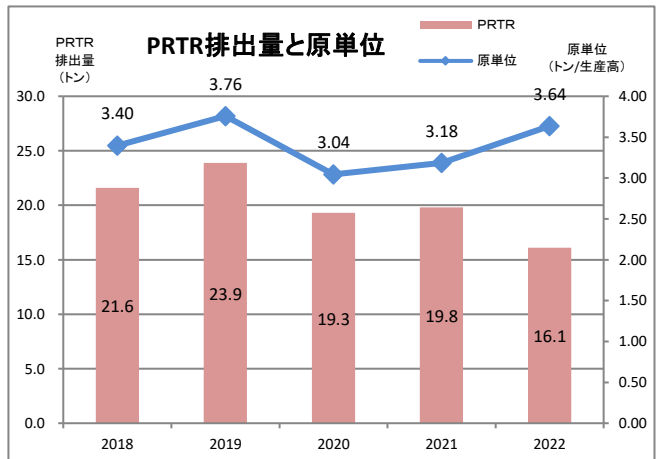
地球環境保護のため、人の健康に害を及ぼす環境負荷物質削減に取り組んでいます。

業界団体である日本自動車車体工業会の「環境負荷物質自主取り組み基準」に基づいた環境負荷4物質(SOC:カドミウム・鉛・水銀・六価クロム)のフリー化を達成しています。

工場では鉛を含まない塗料への変更や、六価クロムを含まないメッキの採用等が実施されています。また、2020年からの水銀の使用規制に対応するため、工場棟の水銀灯のLED化を推進してきました。

## 5. 化学物質排出量の把握 (PRTR)

PRTR法に基づき指定化学物質の排出量を管理するとともに削減に取り組んでいます。当社で使用しているものはトルエン、キシレン等4種類の物質が該当します。トルエン、キシレンの含有量の少ない塗料やシンナーに変更し削減の取り組みを進めています。上記2、3と同様、生産量減少での削減となっています。

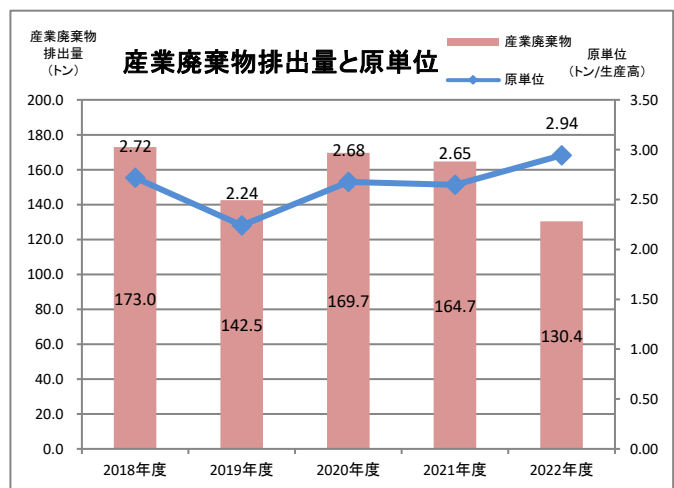


## 6. 産業廃棄物削減

当社では3Rを重要課題と位置づけ、省資源、リサイクルを積極的に推進しています。

- ① Reduce (リデュース) 省エネ、省資源、廃棄物削減、環境負荷低減
- ② Recycle (リサイクル) 再資源化
- ③ Reuse (リユース) 再使用

廃棄物はそれぞれスクラップ、産業廃棄物に細かく分類されています。

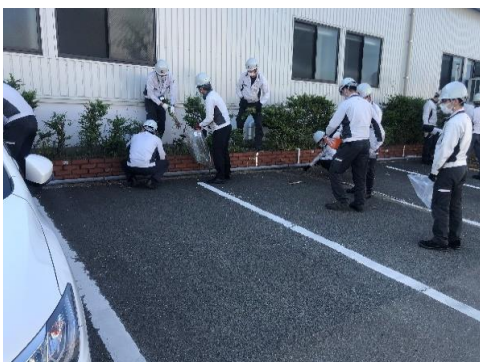


## 7. 地域ボランティア活動

毎月1回「環境整備の日」を設け、全従業員が工場内外の環境整備を実施しています。

それに合わせ、最寄り駅より工場までの道路清掃活動を積極的に実施しています。

2022年度も例年通り、全従業員368人での活動を毎月実施しました。



工場前駐車場を清掃します。



工場前の公道を清掃します。